

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2770302186
法人名	医療法人協仁会
事業所名	グループホーム第2なごやか
訪問調査日	平成 21 年 1 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 23 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770302186
法人名	医療法人 協仁会
事業所名	グループホーム第2なごやか
所在地	寝屋川市城内町25-7 (電話) 072-801-5200

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月23日

## 【情報提供票より】

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 3 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 10.6	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	67 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人協仁会が経営母体である。総合病院,老人保健施設、訪問看護ステーション、デイケアセンター他数箇所の福祉施設が系列にある。平成18年3月に地域の要請を受けて開所した。職員の殆どは、系列の保健施設やグループホームでの介護経験者であるため、短い期間に実績を上げている。系列の病院,その他の施設との連携もスムーズで、医療面はもとより、各施設への移行なども利用者にとって安心感がある。理念として、「人権を尊重し、安全と生命を守る」「より質の高いケアとサービスの提供を」「家庭や地域に開かれた施設」を目指し職員一同理念の実践に取り組んでいる。地域住民と密度の高い交流が行われており、市の担当部署との連携もきわめて良好である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、①事業所が地域の福祉・介護の情報発信基地となるよう。②研修会への継続的な参加機会の増加を、であった。①については目下模索中である。②については毎月一回訪問看護師による研修が殆ど全員参加で継続的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は職員の意見と管理者の判断を加えて自己評価を行っている。幾つかの課題を見出し改善への目標を持ち、その方法を検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回運営推進会議が開かれている。出席メンバーは市の高齢介護室職員、または包括支援センター職員、自治会長、家族、利用者代表等で、協仁会介護事業部と管理者が主催して事業所の状況等を報告している。出席者から有益な提案があり、それらをケアの向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が来所されたときには必ず利用者の状況報告をし、家族からは希望や苦情があれば聞くようにしている。また苦情処理の窓口を設け不安への対応を行っている。意見、苦情があれば直ちに個別に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は自治会に加入し、地域の行事には参加している。自治会全体での避難訓練、花火大会、お祭り、餅つき大会への参加。地域で買い物をしたり、また、地域のボランティアによる利用者の散歩の介助、手芸の指導、なども受けている。地域との交流は密である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を少し変えて、「人権を尊重し、安全と生命を守る」「より質の高いケアとサービスの提供を」「家庭や地域に開かれた施設」を事業所独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入り口や各階の見やすい場所に掲示しており、職員すべてが理念を共有しており、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会にも加入し地域の季節行事に参加し、買い物や散歩などでも地域との交流に努めている。地域のボランティアが訪問、演芸や、趣味の講師、それに毎週利用者の散歩の付き添いにも協力して貰っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員の意見をまとめて記入されている。外部評価の結果は、職員会議で報告されると共に、結果に基づき改善への努力はしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所の状況報告のほか、市の高齢介護室や包括支援センター、自治会等から意見提案があり、それぞれサービス向上に活かしている。また利用者家族からの要望が出ることもあり、個別に改善を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当部署へは毎月訪問しており、サービス向上についての相談等をしている。また、市の包括支援センター主催の勉強会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ホーム便りを発行し行事等の報告に添えて、利用者それぞれの暮らしぶりや健康状態を報告している。また家族の来所時には必ず話し合い、報告をおこなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時、運営推進会議でも家族の意見、要望などを引き出すよう努めており、その都度希望に添えるよう改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職を最小限に抑えるために、管理者は職員会議あるいは個人的に職員の意見、希望をよく聞き、働きやすい職場環境作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回系列の病院から派遣される看護師による社内研修を行っている。殆どの職員は研修を受講している。外部研修は現在のところ十分ではない。	○	限られた職員体制の中ではあるが、理解や実践の習熟度に応じて、働きながらの学びの機会を組織的、継続的に確保し、地域密着型のサービスの実践力を養う取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、事業所として取り組みを模索しているが、現在のところ、機会は得られていない。	○	同業者のネットワークづくりや勉強会、相互評価などの連携を行えるような、また、同業者との交流を通じ仕事の悩みの解消や、緊急時の連携をスムーズにするなどの、事業所ならびに地域全体としてのサービス水準の向上が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や食事体験のほかホームの特徴、きまりなどをよく説明し、また、入居希望者の経歴、健康状態、共同生活への対応などもよく聞き、納得を得てから入居して貰っている。体験入居の用意もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や、趣味、能力に応じて、掃除、食事の準備、片付けなど職員と一緒にやる生活リハビリの取り組みにより、共に支えあう関係ができています。その中で職員が人生の先輩である利用者から教えられることも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から職員は利用者寄り添って生活を共にしている。その場、その場で利用者の意向を汲み取り、意向に沿うよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の日々の暮らしぶりや、各種のチェック表などで状況を把握している。家族の意見、希望を踏まえて介護支援専門員を中心にして意見を出し合い介護計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化があればその都度会議をもち、家族の意向も取り入れ新しい介護計画を作成している。変化のない場合でも、3ヶ月に1回関係者で話し合い見直しを行うとともに、家族にも連絡して了解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
そ					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて病院への送迎や買い物などの外出支援がなされている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者は協力医療機関である小松病院をかかりつけ医とすることに同意している。元からのかかりつけ医の受診を希望する利用者には送迎、付き添いを行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時から重度化した時、終末期のあり方について本人、家族と話し合い、文書化され、職員も全員方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の会話では家族的な親しみのある、利用者の尊厳を損なわない言葉遣いで接している。排泄、入浴時の対応にも細かい配慮をしている。記録等の個人情報の取り扱い、保管は適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や習慣、ペースに合わせることを基本としている。起床時間、食事、入浴など柔軟に対応している。また、本人の能力に合わせて、掃除、物干し、趣味など支援しながら一緒にやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、できる範囲で職員と一緒にやっている。月2回は利用者の好みに合わせたメニューとし、買い物から一緒に行っている。職員も食事を共にし、それとなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせ、週2回以上の入浴をゆっくり楽しんでいる。回数の少ない人には、記録をとり声かけをして入浴を、あるいは、清拭、足浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味、習慣などを活かして何らかの役割を持つ日常生活を支援している。日々のレクリエーションでもその人らしさを引き出すように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週月曜日、近隣の人たちのボランティアによる散歩の支援を受けている。病院への受診、買い物、地域の行事参加、花見や戸外のレクリエーションなど、外出の機会を作り支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の道路は比較的車の通行量が多い。利用者の安全確保のため、家族の了解を得て、玄関は施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応マニュアルや連絡網も整備されている。避難訓練は、自治会と合同でやり、近くの避難所まで利用者を誘導したこともある。昨年度は避難訓練は行っていない。	○	緊急時の避難誘導は職員だけでは限界がある。警察や消防署などとの連携をはかり、年2回以上の訓練を実施し、職員、および、利用者がスムーズに対応できるよう普段から慣れると共に、地域住民の協力を得る取り組みも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分補給量を確認し記録している。食事は、バランスのよいシルバーメニューの食材を購入し事業所で調理している。個人ごとに、刻み食、流動食などにも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、明るく、ゆったりくつろげるソファも置かれている。壁面にはホームでの行事の写真や切り紙細工などが貼られて華やかで、季節感もある。廊下、トイレ、食堂など掃除が行き届いて美しい、		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクローゼットの他は利用者がそれぞれ好みのもの、使い慣れたものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫されている。家族の写真を飾ったり。趣味で作った手芸品なども置かれ、従来からの生活との違和感がないよう設えられている。		